

選べる人

皆さんは、将来、何になりたいですか。どんな職業に就きたいですか。これは、皆さんの人生の中でも最大の関心事のほうです。このことに関して、「あなたはこれをやります。これしかありません」という選択肢（せんたくし）がない場合と、いくつかの選択肢（せんたくし）があり、選べるとしたら、どちらの方がいいですか。きっと多くの人は、選べる方がいいのではないのでしょうか。

では、選択肢がたくさんある場合はどうでしょうか。かえって選ぶのが難しくなり、選択肢などない方が楽だと思える人もいるかもしれません。誰かに決めてほしいと考える人も出てくるでしょう。選ぶ必要がない方が楽でいい人もいます。

皆さんが生きる現代は、“選択（せんたく）の時代”です。選ぶことができるのです。それもたくさんの中からです。選びたくないという考えは、世界とつながった今の時代では、許されないことになっていきます。多くの選択肢が、さらに多様化していくことも避（さ）けられません。そうであるならば、“選べる人”になった方がいいのは明らかです。

私たちは、ゆらりゆらりと何かに身を任せながら、寄りかかりながら、何となく生きていくところがあります。世の中のうねりは、受動的に生きている大多数の人々をすぐに飲み込んでしまいます。自分というものをちゃんともっていないと、誰もがすぐに世の中に影響されて流されてしまいます。自分では、その度ごとに対処しながら一生懸命に動いているつもりでも、フワフワしながら流されているだけということがあります。明確な意志をもっていないので、流れの中で自由に泳ぐことができません。

中学校は、ミニ社会です。小さな世の中です。中学校で生活していく中で、“選べる人”になっていかなければなりません。授業でも、それ以外のことでも、必ずといっていいほど、選択肢が用意されています。皆さんは、自分の考えで、自分の意志で決めていますか。自分が選んだことに対して理由や根拠（こんきょ）はありますか。「どうしてそれを選んだのか」ということが重要です。

選ぶためには、それぞれの選択肢について知らなければなりません。違いを理解する必要があります。自分から調べよう、話を聞こうという姿勢が大切です。

皆さんは、自分の人生をコントロールする選択肢を握（にぎ）っています。実際に、将来のことを決めるのはまだ先のことになります。しかし、そのときになって、多くの選択肢から急に選べるものではありません。選ぶためのトレーニングが必要です。

「どうして」「なぜ」それを選んだのか。自分の考えを話したり書いたりできるようにする訓練です。

皆さんが社会に出る頃には、世の中は今以上に変わっていることでしょう。それでも、“選べる人”になっていれば大丈夫です。